

呉工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健・体育	
科目基礎情報							
科目番号		0036		科目区分	一般 / 選択必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科		環境都市工学科		対象学年	5		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		なし					
担当教員		佐賀野 健					
到達目標							
1. 自分の体力レベルを把握できる。 2. ゴルフを行う上でのエチケットやマナーを理解できる。 3. ピッチングの基本的な打ち方ができる。 4. 方向・距離感覚を修得し、ある程度狙ったところに打つことができる。 5. バドミントンの基礎技能をゲームで生かすことができる。 6. バドミントン（ダブルス）の集団的技能をゲームで生かすことができる 7. バドミントンのゲームを企画・運営ができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		自分の体力レベルを適切に把握できる		自分の体力レベルを把握できる		自分の体力レベルを把握できない	
評価項目2		ゴルフの技能を生かすことが適切にできる		ゴルフの技能を生かすことができる		ゴルフの技能を生かすことができない	
評価項目3		バドミントンの技能をゲームで生かすことが適切にできる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができる		バドミントンの技能をゲームで生かすことができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 本科の学習・教育目標 (HA) JABEE 環境都市 (B)							
教育方法等							
概要		新体力テストの測定を実施し、自分の体力や運動能力を測定し、その結果、不足している能力を確かめ、運動能力を高める自己診断資料とする。生涯にわたってスポーツを親しむという観点からゴルフ、バドミントンを学習する。基本的な個人技能を高めるとともに、効果的な練習方法、エチケットマナー、ゲームの企画や運営方法、審判法などを理解させる。					
授業の進め方・方法		基礎技術の練習を行って、ゲームの戦術を学習する。					
注意点		学校指定の体操服及び体育館シューズを着用すること。体力づくり・練習方法等、クラブ活動に活用するとよい。授業だけでは運動不足なので、クラブ活動や自主的トレーニングを行うとよい。					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期		1週	球技大会の種目		4. 球技大会種目の練習		
		2週	球技大会の種目				
		3週	バスケットボール		5バスケットボール バスケットボールの技術・ルール理解と審判法の説明 個人技能の修得 集団技能の修得 ゲーム		
		4週	バスケットボール				
		5週	バスケットボール				
		6週	バスケットボール				
		7週	バスケットボール				
		8週	バスケットボール				
		9週	バスケットボール				
		10週	バスケットボール				
		11週	バスケットボール				
		12週	バスケットボール				
		13週	バスケットボール				
		14週	バスケットボール・スキルテスト				
		15週	バスケットボール・スキルテスト		6. 持久走 長距離走の練習		
		16週	バスケットボール・スキルテスト				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。		2	前4,前9,後1,後3
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。		2	前4,前9,後1,後3
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。		2	前4,前9,後1,後3

				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	2	前4,前9,後1,後3
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	2	前4,前9,後1,後3
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	2	前4,前9,後1,後3

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	60	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0